

# 校長室の小窓から・・・

—No.7— 令和7年6月18日(水) 金光八尾中学校高等学校 校長 松井 祥一

## 創立記念日は未来を語ろう

6月19日(木)は創立記念日です。昭和60年(1985年)の創立で、金光八尾は40歳になりました。論語では「子曰く、吾十有五にして学に志す、三十にして立つ、四十にして惑わず、五十にして天命を知る、六十にして耳順う、七十にして心の欲する所に従えども、矩を踰えず。」とありますが、先行き不透明と言われる現代において、何歳になっても迷うことがなくなったとは言い難いように思います。

医療が進歩し、寿命が10年ごとに平均2～3年のペースで上昇しているのだそうです。そうすると今の12歳の子どもたちの平均寿命は104歳となります。寿命がますます伸び、社会構造が急速に変化していく中、子どもたちは何を大切にすべきでしょうか。

「シンギュラリティ」という言葉をご存じですか。人工知能が人間の知能を超える転換点で、2045年と予測されています。中には2030年代だと言う人もいます。その頃、労働人口の約半分が人口知能やロボットに代替され、人間の仕事がなくなるのではないかと考えられています。既にアメリカでは、IT失業率が高まっているそうです。

中央教育審議会では「これからの子供たちは、解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解ける力を育むだけでは不十分であり、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められる」と報告されています。

先日、学校の壁面に「進化、グローバル探究教育」という新しい懸垂幕を掲げました。主体的で対話的、探究型の学習を進化させていきたいという思いです。多様な文化や異なる環境を学ぶことで、主体的に創造力豊かに物事を考え、世の中に貢献できる人材になることを目的としたオールイングリッシュの授業を取り入れました。教育実習生の一人が、その授業を見学して「自分たちの時代にもこのような授業があったら、もっとグローバルな視野が広がっていたと思います。とてもうらやましいです。」と感想を述べていました。

創立記念日には、金光八尾の歴史を振り返るとともに、自分たちの未来について語ってみてはどうでしょうか。

